

桑水流選手(スポ科H20)が日本主将



母校本館前の壮行会で「フレーフレー、クワズル」と激励される桑水流選手(前方右から2人目)=丸写真も

リオ五輪
ラグビー

初種目の男子7人制 「目標はベスト4以上」

南米ブラジル・リオデジャネイロで開催される夏季オリンピックの七人制ラグビーに出場する男子日本チームで、母校出身の桑水流裕策選手(スポ科H20)がキャプテンを務める。世界最強の強豪国がひしめく中「目標はベスト4以上」。一月二十七日には母校本館前で壮行会もあった。

母校本館前で壮行会

桑水流選手が母校に入ったのは教員免許を取るためだった。鹿児島工高時代からラグビーをしていたので大学でもラグビー部へ。当時のコーチが七人制の日本チームコーチだった。二年生の時、いきなり「七人制日本代表チームに入れ!」。スリランカで行われたアジア大会に出場、優勝した。翌年もドーハで連続V。帰国すると、大学で表彰式。

学長から金一封を貰い、大金の大半は両親へ。七人制ラグビーが五輪の正式種目になったのは今回が初めて。十五人制と同じ広さのグラウンドで、試合は前半7分、ハーフタイム1分、後半7分の計15分。一日三試合する。チームの柱「ミスターセブンス」にとって体力はもちろん長中・短距離の走力も必要絶対条件だ。

リオ五輪は強敵ぞろい。ニュージールランド、南アフリカ、フィジー、アメリカなど。日本はこれまで世界でベスト8が最高。W杯(十五人制)でファイバーした五郎丸歩選手やヤマハ発動機とは同世代。好きな言葉は「苦あれば楽あり」。卒業前に学長から聞いた「一冊の哲学書より一滴の香水」との諺は自分の感覚を大事にせよとの奥義として胸にしまっている。家族は妻と長男。